

◆ 今週のコメント

- ・ 感染性胃腸炎の定点当たり報告数は8.62(319例)で、先週(11.05)に比べ減少しました。しかし、依然として過去5年平均値を上回っています。年齢階級別では1歳が51例(15.9%)と最も多く、1歳～5歳で53.6%を占めています。
平成24年1月に京都市衛生環境研究所で受け付けた感染性胃腸炎患者の検体から、ノロウイルスGⅡが17件、ノロウイルスGⅠが1件、ロタウイルスが1件検出されています。
- ・ 水痘の定点当たり報告数は1.76(65例)で、先週(0.81)の約2倍となり、過去5年平均値を大幅に上回っています。
年齢階級別では1歳(29例)、2歳(14例)の順で、1歳～3歳で76.9%を占めています。
- ・ 手足口病の定点当たり報告数は0.51(19例)ありました。例年ほとんど報告のない時期にもかかわらず、報告数が10例を上回る状態が続いています。

◆ 今週のトピックス: <インフルエンザ>

インフルエンザの定点当たり報告数は36.23(2,319例)で、先週(23.02)の約1.6倍に増加し、警報レベルの「30」を大きく上回っています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

ありません

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点64, 小児科定点37, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	36.23	2319
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	8.62	319
	② 水痘	1.76	65
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.84	31
	④ 手足口病	0.51	19
	⑤ 突発性発しん	0.49	18
眼科	流行性角結膜炎	0.50	5

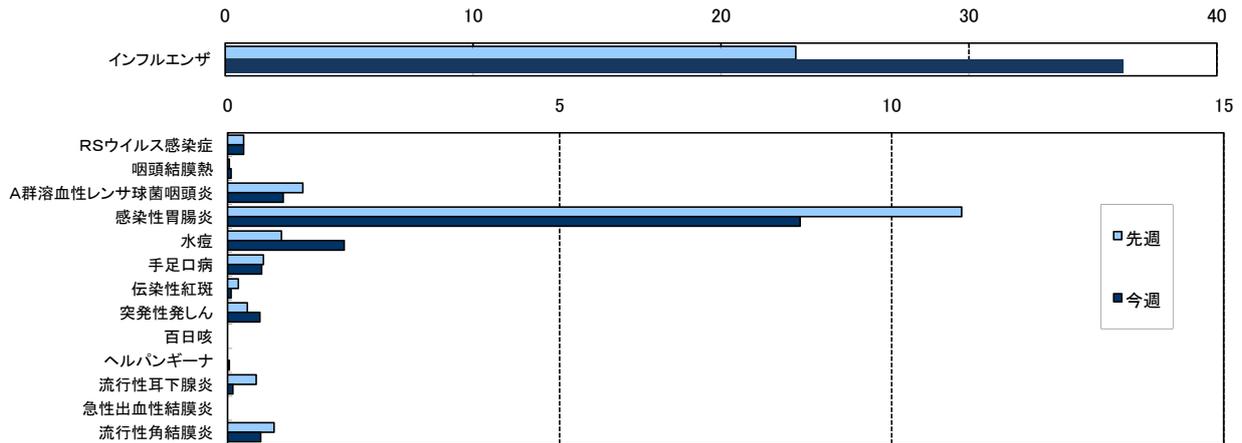
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <インフルエンザ>

(注) 京都市のデータは、平成24年2月2日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

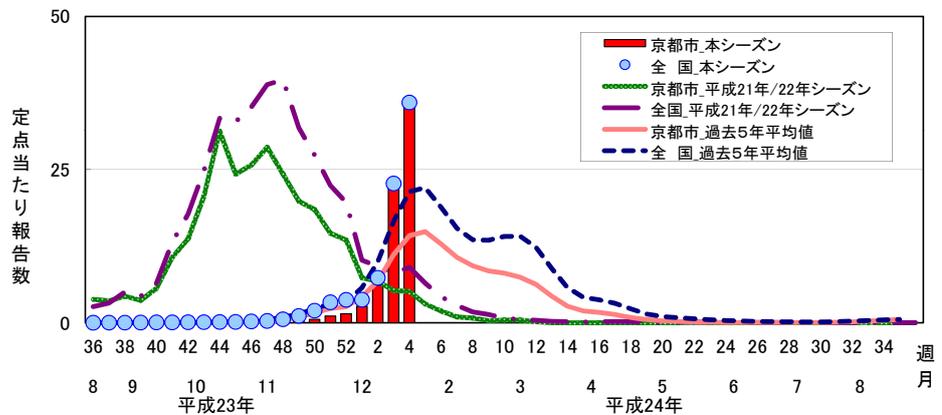
◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第4週)と先週(第3週)の定点当たり報告数の比較



2 インフルエンザの推移

週	報告数(例)
第52週	97
第1週	173
第2週	393
第3週	1,473
第4週	2,319
累積報告数 (第36週以降)	4,605

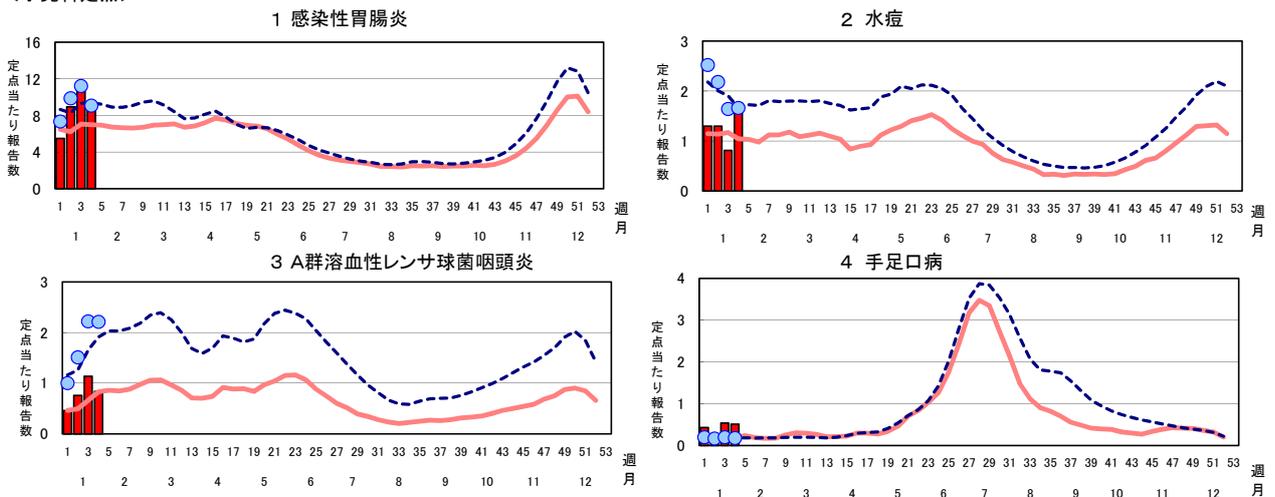


※平成21年/22年シーズンは、新型インフルエンザの発生により、例年と流行傾向が大きく異なるため、別に表記しています。過去5年平均値は、36-52週はH17-H20年及びH22年、1-35週はH18-H21年及びH23年の平均値です。

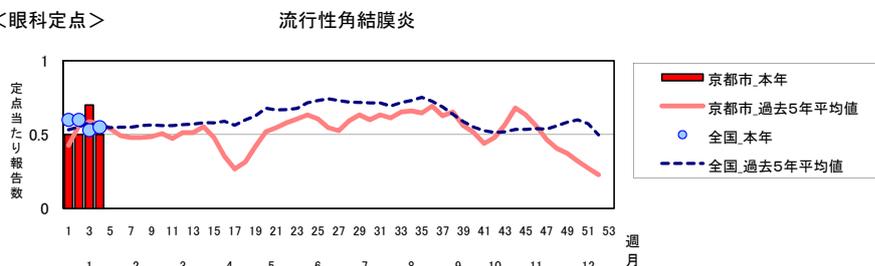
※京都市のインフルエンザ発生状況の詳細を下記に掲載しています。
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000071285.html>

3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



第4週(1月23日～1月29日)トピックス: <インフルエンザ>

インフルエンザの定点当たり報告数は36.23(2, 319例)で、先週(23.02)の約1.6倍に増加し、警報レベルの「30」を大きく上回っています。

定点当たり報告数が「30」を超えたのは、新型インフルエンザの流行した平成21年/22年シーズンを除き、平成16年/17年シーズン以来7年ぶりとなっています。

今シーズンに京都市衛生環境研究所で分離、検出されたインフルエンザウイルスはA(H3)亜型4例、B型1例で、全国でもA(H3)亜型の報告が89.8%(2月3日現在)を占めています。

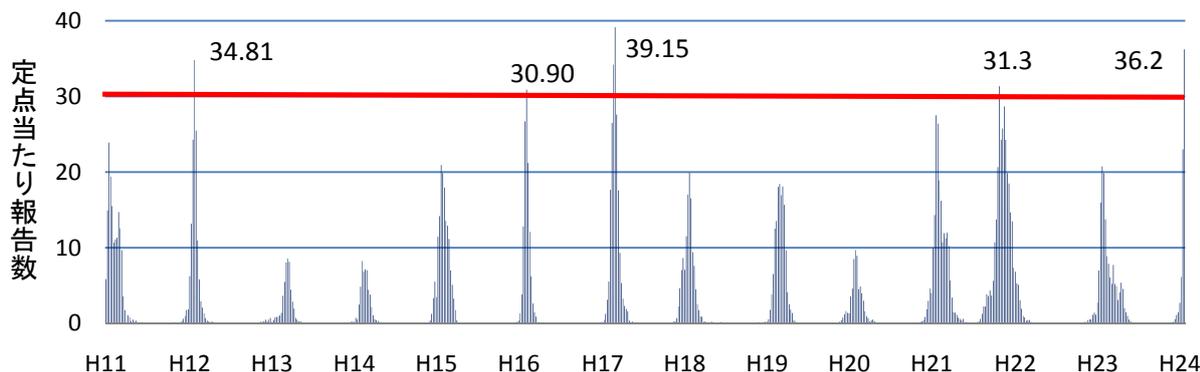
今シーズンは5年ぶりのA(H3)亜型の流行となっています。

年齢群別では第4週は5歳～9歳が34.5%と最も多く、次いで10歳～14歳20.9%、0歳～4歳20.1%の順となっており、0歳～14歳の割合が増加しています。

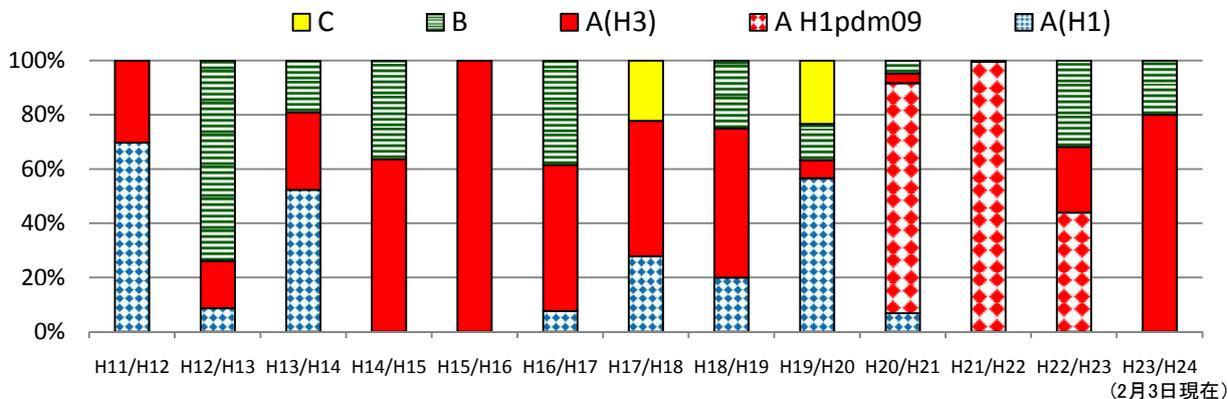
ホームページにインフルエンザ速報を掲載していますので下記URLを御参照ください。

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000071285.html>

定点当たり報告数の推移(京都市)



シーズン別インフルエンザウイルス検出割合の推移(京都市)



年齢群別報告割合の推移(京都市)

